

宇美町

エコトリコ

(2018年広報9月号)



日本では、今年の夏に埼玉県熊谷市で、41.1℃の史上最高気温が記録されたことは記憶に新しいと思います。1日の最高気温が25℃を超える【夏日】、30℃で【真夏日】、35℃では【猛暑日】と表記されます。40℃を超える最高気温は一夏に6〜7回記録されるようになり、珍しくなくなってきたからです。世界の年間平均気温は、この100年で約1℃上昇しています。東京では2℃、福岡では4℃上昇していることを以前お伝えしました。今年の7月にアメリカ海洋大気局から、2017年の「CONの年間平均濃度」が2016年に比べて2.8ppm上昇し、過去最高を記録したと発表されました。また、アメリカ西海岸では52℃を記録した都市もありました。日本国内の報道機関では、毎日「熱中症に注意してください！」と呼びかけていたにもかかわらず、この原稿を書いている8月初めでも全国で7万1千人以上の方たちが熱中症で救急搬送されています。おそらくこの数も過去の最高記録となるでしょう。

決してオーバーワークではなく、深刻な問題であるといえます。私たち1人ひとりがCONの削減に今から真剣に取り組む、実行していかなければ今世紀末頃に生活する人たちが即ち、私たちの子どもや孫たちに過酷な環境下での生活を強いることになります。決して他人事ではありません。



文責

福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆